

様式第二号の十三(第八条の十七の二関係)

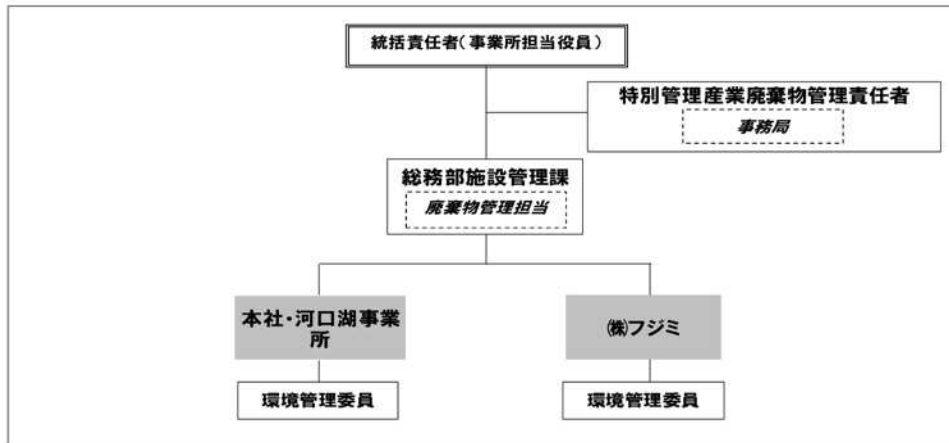
(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書	
令和7 年 6 月 30 日	
山梨県知事 長崎 幸太郎 殿	
提出者	
住 所 山梨県南都留郡富士河口湖町 船津6663-2	
氏 名 シチズンファインデバイス株式会社 代表取締役社長 藤澤 隆弘 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 0555-23-1231	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	シチズンファインデバイス株式会社 本社・河口湖事業所
事業場の所在地	山梨県南都留郡富士河口湖町船津6663-2
計画期間	令和7年4月1日から令和8年3月31日まで
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	製造業 輸送用機械器具製造業
② 事業の規模	309億円(連結売上高)
③ 従業員数	471名
④ 特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	<div><div>「廃棄物発生源」</div><div>「廃棄物の種類」</div><div>「処理」</div><div>自動盤加工製品 → 表面処理工程 → 強アルカリ → 中和 ⇒ セメント原料</div><div>強酸 → 中和 ⇒ セメント原料</div><div>引火性廃油 → 油水分離 ⇒ 再生油</div><div>診療所 → 医療業務 → 感染性廃棄物 → 焼却 ⇒ セメント原料</div></div>

## (第2面)

## 特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



## 特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 6 年度）実績】				
	特別管理産業廃棄物の種類	強アルカリ	強酸	引火性廃油	感染性廃棄物
	排 出 量	43.1 t	47.7 t	1.6 t	0 t
	（これまでに実施した取組） ・ 製造部門を中心とし、代替化、建浴回数の見直し等による改善活動を推進し、廃棄物の排出抑制活動を展開。 ・ 特定施設及び排水処理施設の適正管理によるトラブルの軽減。				
②計画	【目標】				
	特別管理産業廃棄物の種類	強アルカリ	強酸	引火性廃油	感染性廃棄物
	排 出 量	43 t	47 t	2 t	0.1 t
	（今後実施する予定の取組） 上記取組の継続				

## 特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 強酸・強アルカリは、排水処理施設及び製造工程にて回収。 引火性廃油については危険物倉庫、感染性廃棄物は専用倉庫にて保管。
②計画	（今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 新棟の立ち上げに伴う強酸・強アルカリ回収場所の変更

## (第3面)

## 自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和 6 年度）実績】				
	特別管理産業廃棄物の種類	強アルカリ	強酸	引火性廃油	感染性廃棄物
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 特になし				
②計画	【目標】				
	特別管理産業廃棄物の種類	強アルカリ	強酸	引火性廃油	感染性廃棄物
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 特になし				

## 自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和 6 年度）実績】				
	特別管理産業廃棄物の種類	強アルカリ	強酸	引火性廃油	感染性廃棄物
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 特になし				
②計画	【目標】				
	特別管理産業廃棄物の種類	強アルカリ	強酸	引火性廃油	感染性廃棄物
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 特になし				

## (第4面)

## 自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

①現状	【前年度（令和 6 年度）実績】				
	特別管理産業廃棄物の種類	強アルカリ	強酸	引火性廃油	感染性廃棄物
	自 ら 埋 立 処 分 を 行 っ た 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） 特になし				
②計画	【目標】				
	特別管理産業廃棄物の種類	強アルカリ	強酸	引火性廃油	感染性廃棄物
	自 ら 埋 立 処 分 を 行 う 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） 特になし				

## 特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和 6 年度）実績】				
	特別管理産業廃棄物の種類	強アルカリ	強酸	引火性廃油	感染性廃棄物
	全 処 理 委 託 量	43.1 t	47.7 t	1.6 t	0 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	43.1 t	47.7 t	0 t	0 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	0 t	47.7 t	1.6 t	0 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	43.1 t	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） ・委託する条件として、電子マニフェスト対応可能な業者であることを必須項目とする。 ・発生した産業廃棄物を業者に委託する場合、収集運搬から処理に至るまでのプロセスが適正なものであるか確認する。 ・新規業者の選定に際しては、処理業者取引調査及び処理場の現地調査を行う。また、契約済み業者についても定期調査を実施し、条件がクリアできた業者を認定し取引する。 ・リスク対応として、1品目に対し、最低2業者と委託契約を締結。				

## (第5面)

②計画	【目標】				
	特別管理産業廃棄物の種類	強アルカリ	強酸	引火性廃油	感染性廃棄物
	全 処 理 委 託 量	43 t	47 t	2 t	0.1 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	43 t	47 t	0 t	0.1 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	0 t	47 t	2 t	0 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	43 t	0 t	0 t	0.1 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 上記取組の継続				
電子情報処理組織の使用 に関する事項	【前年度（令和 6 年度）実績】				
	特 別 管 理 産 業 廃 棄 物 排 出 量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)		92.4 t		
	(今後実施する予定の取組等) 平成26年7月に電子マニフェストに加入。 電子マニフェスト対応業者との契約を必須とし、電子マニフェスト に完全移行。 今後も継続して運用管理していく。				
※事務処理欄					

(第6面)

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。